



「いきものログ」を用いた市民調査について
— 自然環境保全基礎調査昆虫類分布調査から —

2025年11月7日（金）

NORNAC28

平松新一・尾崎由布子・川元集太（環境省生物多様性センター）



目的

我が国の自然環境の現況を把握し、自然環境保全法の施策を推進するための基礎資料とする

1973（昭和48）年度から実施

2022（令和4）年度 自然環境保全基礎調査マスタープラン策定
→社会情勢やニーズの変化に対応して調査を行っていくこととした

- ① 種の分布調査 哺乳類、両生・は虫類、淡水魚類、昆虫類等
- ② 生態系調査 植生、巨樹巨木、海岸、干潟等
- ③ 生物多様性情報収集調査 生きもの全般（いきものログ）等

昆虫類分布調査

第2回基礎調査（1978）、第3回基礎調査（1984）、
第4回基礎調査（1990～1991）、第5回基礎調査（1997～1998）
で実施。それ以降実施されていなかった。



我が国の昆虫類の現状や課題等を明確化するため、
2023～2026年度に実施



昆虫類分布調査設計基本方針

1. 環境施策及び環境保全活動からの要請に応え得るよう、選定方針を定め
調査対象種の絞り込み
2. 文献調査、現地調査及び聞き取り調査の他、公開されているデータの活用、博物館等の収蔵標本を対象とした調査による**分布情報の収集**
3. 生息分布情報の集約、対象種の**全国分布図作成**、過去の結果との比較

事業概要と調査スケジュール

	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
調査設計作成	→			
既存分布情報の 収集・整理	→			
アンケート調査		→		
標本調査	大学博物館等への ヒアリング →		→	
市民調査		試行的に5種で実施 →		
補完調査				必要に応じて →
分布図作成 データベース作成	分布図は30種 について作成	残る種についても 分布図作成	→	
分布図・データベー スの精査・評価			スケジュール等検討 →	
とりまとめ			とりまとめ方針検討	とりまとめ →

- R5年度：調査設計作成
既存分布情報収集
- R6年度：既存分布情報収集継続
アンケート調査実施
- R7年度：情報空白地の追加的調査
分布図作成開始
- 具体的な成果のとりまとめ方法や
結果の評価方法・体制等について
は、R6、7年度の検討会等で検討



調査対象種の選定基準

①調査精度及び調査効率の確保

- ・同定が容易で誤認や同定ミスが少ないと考えられる種
- ・広範囲に分布し、情報集積により全国的な分布状況が俯瞰できる種
- ・既存情報や標本が十分に蓄積されている種
- ・市民調査が可能で多くの情報が期待できる種

②過去の調査結果との比較

- ・過去の基礎調査において調査され、過去との比較ができる種

③各環境施策課題や社会ニーズに対応する種

- ・環境省レッドリスト、国内希少野生動植物種において評価、指定されている種
- ・生息地や個体群が減少傾向で、今後レッドリストとして評価される可能性のある種
- ・環境省の代表的な昆虫20選等、自然共生サイトでの指標昆虫となりうる種
- ・かつては一般的であったが、現在は絶滅が危惧される種（元・普通種）
- ・生物多様性国家戦略における4つの危機の影響を強く受ける種



調査対象86種を選定

調査対象種の絞り込み 調査対象86種の決定

No.	目	種	希少種	外来種	代表的な昆虫20選	主な選定理由
1	トンボ目	ハグロトンボ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
2		キイトトンボ	VU		●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
3		ベニトンボ				選定の観点に多く合致し、温暖化により増加傾向。総合解析における気候変動指標種
4		ベッコウトンボ	CR・国希			基礎調査で継続的に過去との比較がされている種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため
5		アキアカネ				減少傾向の可能性がある。選定の観点に多く合致する
6		ノシメトンボ				選定の観点に多く合致する
7		チョウトンボ			●	代表的な昆虫20選、広域的普遍種であるものの指標性が高い
8	ナナフシ目	トゲナナフシ				ナナフシ目では識別が容易、照葉樹林に生息し情報が良く集まれば分布傾向が特徴的になると予想
9	カマキリ目	サツマヒメカマキリ				分布北上の可能性が。同定は難しいものの、発生時期で判断が可能
10		オオカマキリ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
11		ハラビロカマキリ				きわめて広域普遍的種であるものの、ムネアカハラビロカマキリと合わせ調査し、在来種との競合が考えられる地域を把握する
12		ムネアカハラビロカマキリ		外来種		ハラビロカマキリと合わせ調査し、在来種との競合が考えられる地域を把握する
13	バッタ目	エンマコオロギ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
14		マツムシ				選定の観点に多く合致する。開発による生息地消失の影響を受けやすい一方で、温暖化による分布拡大が指摘される
15		キリギリス属 (ヒガシキリギリス・ニシキリギリス)			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
16		クツフムシ				マント群落やソデ群落に生息する、林縁環境の指標となる種。鳴き声で同定可能。近年、減少傾向にある地域がある一方で、分布が広がっているといわれる地域もあり、現状の分布を把握する
17		オンブバッタ				きわめて広域普遍的種であるものの、アカハネオンブバッタと合わせ調査し、在来種との競合が考えられる地域を把握する
18		アカハネオンブバッタ		外来種		オンブバッタと合わせ調査し、在来種との競合が考えられる地域を把握する
19		ショウリヨウバッタ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
20		ショウリヨウバッタモドキ				草地の指標種。ショウリヨウバッタよりも生息環境の選択性が高く、減少地域も見られる
21		トノサマバッタ				広域的普遍種であるものの、識別しやすく草地環境の指標性が高く、都市近郊においても調査できる
22		カワラバッタ				近年変化が著しい河川に依存する種(環境のよい河原の指標種)
23	カメムシ目	クマゼミ				総合解析における気候変動指標種、基礎調査で継続的に過去との比較がされている種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため
24		ミンミンゼミ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
25		タイコウチ				全国各地にいたが激減しており、選定の観点に多く合致する
26		ミズカマキリ				全国各地にいたが激減しており、選定の観点に多く合致する
27		ヒメミズカマキリ				全国各地にいたが激減しており、選定の観点に多く合致する
28		タガメ	VU、特二			全国各地にいたが激減しており、選定の観点に多く合致する
29		アカスジキンカメムシ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する

調査対象種の絞り込み 調査対象86種の決定

No.	目	種	希少種	外来種	代表的な昆虫20選	主な選定理由	
30	アミメカゲロウ目	キカマキリモドキ				アミメカゲロウ目では比較的識別しやすい	
31		キバネツノトンボ				丘陵地や産地の草原に生息。これまであまり注目されなかったため評価点数が低いものの、識別性や指標性が高く、重点収集として積極的に情報を集める	
32	コウチュウ目	オオミズスマシ	NT			各地で激減しており、選定の観点到多く合致する	
33		ゲンゴロウ	VU、特二			各地で激減しており、選定の観点到多く合致する	
34		コガタノゲンゴロウ	VU			一部で増加傾向がみられる。選定の観点到多く合致する	
35		シマゲンゴロウ	NT			全国各地にいたが激減しており、選定の観点到多く合致する	
36		カワラハンミョウ	EN			河原の指標種で、選定の観点到多く合致する	
37		ヤマトタムシ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する	
38		ガムシ	NT			選定の観点到多く合致する。過去比較が難しいが、減少傾向が著しく強く情報収集が求められる	
39		コクワガタ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する	
40		ヒラタクワガタ				選定の観点到多く合致する。2022年度代表的な昆虫 30 選	
41		センチコガネ属 (センチコガネ・オオセンチコガネ)				●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
42		カブトムシ				●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
43		ヒラズゲンセイ					かつては珍しい種だったが、近年の温暖化によって増加していると言われており、情報収集する
44		ミヤマカミキリ				●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
45		ルリボシカミキリ					広域的普遍種であるものの里地環境の指標性が高く、減少傾向にあると考えられる
46	シロスジカミキリ					広域的普遍種であるものの里地環境の指標性が高く、減少傾向にあると考えられる	
47		フェモラータオオモモトハムシ		外来種		日本において現在クズ寄生で、全国的にまん延するポテンシャルがあるだけでなく、海外では広くマメ科を利用するため、奇主転換を起こした場合、多くの在来植物、農業への被害が懸念される	
48	チョウ目	ギンイチモンジセセリ	NT			草地環境の指標種であり、選定の観点到多く合致する	
49		ギフチョウ	VU			里山環境の指標種であり、選定の観点到多く合致する	
50		ヒメギフチョウ	NT			里山環境の指標種であり、選定の観点到多く合致する	
51		ジャコウアゲハ				●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
52		ナガサキアゲハ					総合解析における気候変動指標種、モニ1000里地調査・河川水辺の国勢調査で南方系種として温暖化による北上に注目している種、基礎調査で継続的に過去との比較がされている種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため
53		ミカドアゲハ					総合解析における気候変動指標種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため。
54		アオスジアゲハ					総合解析における気候変動指標種、モニ1000里地調査で南方系種として温暖化による北上に注目している種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため
55		ヒメシロチョウ	EN				選定の観点到多く合致する
56			オオモンシロチョウ		外来種		北日本に侵入した外来種。栽培アブラナ科植物を利用するため、農業への被害が懸念される
57			ムラサキツバメ				総合解析における気候変動指標種、モニ1000里地調査・河川水辺の国勢調査で南方系種として温暖化による北上に注目している種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため

調査対象種の絞り込み 調査対象86種の決定

No.	目	種	希少種	外来種	代表的な昆虫20選	主な選定理由	
58	チョウ目	ミドリシジミ				改変の著しい河岸性湿地環境に依存する。識別しやすい。	
59		シルピアシジミ	EN			選定の観点に多く合致する	
60		ヤクシマルリシジミ				関西での分布拡大が見られる。総合解析における気候変動指標種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため	
61		ミヤマシジミ	EN			選定の観点に多く合致する	
62		クロマダラソテツシジミ				総合解析における気候変動指標種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため	
63		ツماغロヒョウモン				総合解析における気候変動指標種、モニ1000里地調査・河川水辺の国勢調査で南方系種として温暖化による北上に注目している種、基礎調査で継続的に過去との比較がされている種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため	
64		イシガケチョウ				総合解析における気候変動指標種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため	
65		ルリタテハ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する	
66		コムラサキ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する	
67		アカボシゴマダラ			特定外来	在来種との競争が考えられる地域を把握することを想定し、オオムラサキ、ゴマダラチョウと合わせ調査する	
68		ゴマダラチョウ				選定の観点に多く合致する。アカボシゴマダラの影響にも注目する	
69		オオムラサキ	NT			選定の観点に多く合致する。アカボシゴマダラの影響にも注目する	
70		クロコノマチョウ				総合解析における気候変動指標種、モニ1000里地調査・河川水辺の国勢調査で南方系種として温暖化による北上に注目している種であり、今後も積極的に分布を追う必要があるため	
71		フチグロトゲエダシヤク				河川性のガ類で、人気種であることから情報が継続的に得られやすい	
72		ヤママユ				都市では減少傾向にあり、都市環境に適応したオオミズアオとの対比として情報収集する	
73		オオミズアオ				都市緑地においても適応できる、代表的な大型ガ類	
74		オナガミズアオ	NT			オオミズアオに類似するが、より山地性であり食樹も異なることから、分布に違いが出る	
75		イブキスズメ				高原環境の指標種	
76		ムラサキシタバ				奥山域の指標種であり、過去の調査結果を利用できる	
77		ピロードハマキ				90年代から急激に分布拡大、目立つ種であり、同定が容易。過去の分布情報がある	
78		ハチ目	ウマノオバチ	NT			選定の観点に多く合致する
79			アルゼンチンアリ		特定外来		特定外来生物として分布状況把握が必要、現在も分布拡大している。既存情報の整理で分布状況が把握できる
80			ニッポンハナダカバチ	VU			選定の観点に多く合致する。識別がやや困難だが、海岸性の種であり情報収集する
81			キムネクマバチ			●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する
82			タイワンタケクマバチ		外来種		外来種で分布拡大している。在来種キムネクマバチとの競争については諸説あるものの、竹に依存するために、竹材被害リスク(運搬コスト・品質低下)などが懸念されており、現状把握する価値は高い
83	エゾオオマルハナバチ					北海道では広域普遍な種、セイヨウオオマルハナバチとの競争が懸念される。	
84	クマルハナバチ		NT			セイヨウオオマルハナバチの代替農業資材として利用されているが、遺伝的かく乱などのリスクも懸念され、情報収集する	
85	セイヨウオオマルハナバチ			特定外来		特定外来生物として分布状況把握が必要、現在も農業資材として利用されており適切な管理促進対策のためにも情報が求められる	
86	クマルハナバチ				●	環境省代表的な昆虫20選として情報収集する	



1. 既存情報源からの情報収集
 - 既存文献・資料、インターネット等からの情報収集
2. アンケート調査
 - 調査対象種の生息情報について、専門家、ハイアマチュアから情報収集
3. 市民参加型調査
 - 「いきものログ」を用いた市民からの情報収集
4. 標本調査
 - 調査対象種の標本を有していると思われる博物館等に収蔵されている標本の情報収集

収集する項目

(効率を考え、最低限の情報を収集)

1. 種名
2. 種が記録された場所
3. 種が記録された年

いきものログを用いた市民参加型調査

調査対象種昆虫の目撃情報を、オンラインシステム「いきものログ」を活用して一般から募集

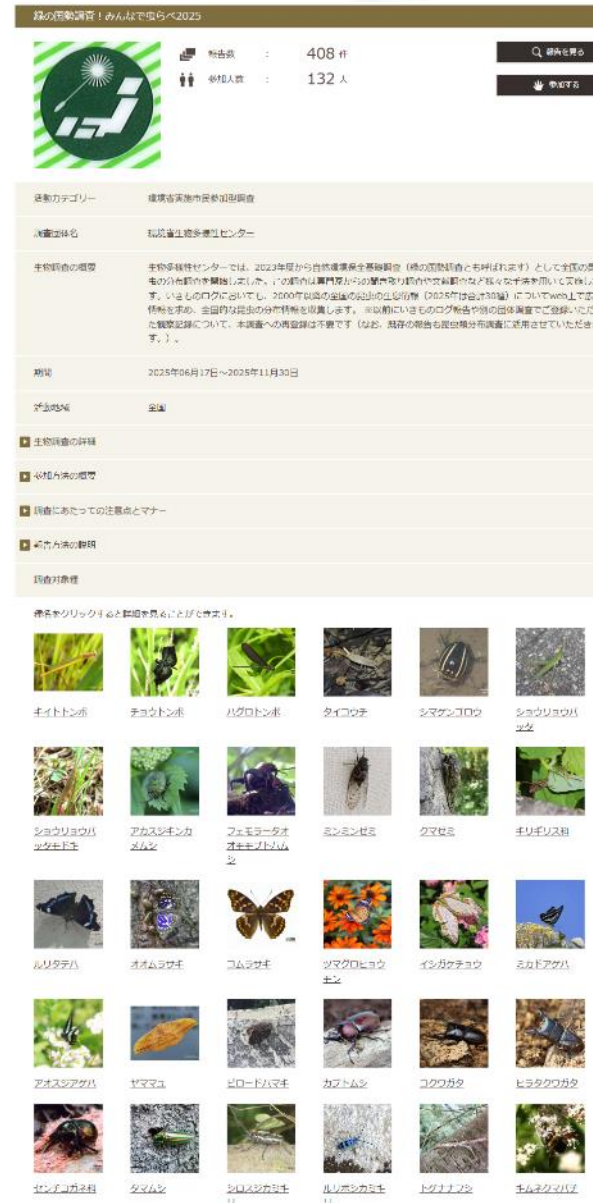
2024年度
ベニトンボ・クマゼミ・キバネツノトンボ・
シマゲンゴロウ・オオムラサキについて
生息情報の提供呼びかけ



対象種の写真を撮影し、いきものログにある「緑の国勢調査！みんなで虫らべ2024」に登録

登録情報数の低迷 69名 81件

- ・対象種の特殊性 一般の方にはなじみの薄い種
- ・開始時期の遅れ 7月25日開始



いきものログを用いた市民参加型調査

2025年度 2024年度の反省を受けて…

緑の国勢調査！みんなで虫らべ 2025

こんな虫を見つけたら、写真をとって報告しよう！



クマゼミ



オオムラサキ

レア度
 ★ 見つけやすい
 ★★ ときどき見られる
 ★★★ 見つけるのがむずかしい

参加方法

- ① 対象の昆虫を見つけて写真を撮ろう！
※卵、幼虫、さなぎ・まゆ、死がい、抜けがらでもOK
- ② 環境省いきものログのウェブサイトから「緑の国勢調査！みんなで虫らべ2025」へアクセス
右のQRコードからアクセス
- ③ 「新規登録」からユーザー登録とログイン
※15才以下の方は保護者の同意が必要です。
- ④ 報告する ※報告期間は2025年6月17日～2025年11月30日
※過去の写真記録（2000年以降）の報告もOK



緑の国勢調査！
みんなで虫らべ2025
虫のくわしい情報も
ゲットしよう！

対象種 (30種)

草むら、野原でみられるもの



ショウジョウバエ



ショウジョウバエモドキ



アカスジケンカメムシ



フェモラータ
オオモモヅクハムシ

水辺(池、小川)でみられるもの



キイトンボ



チョウトンボ



ハグロトンボ



タイコウチ



シマゲンゴロウ

裏へ

対象種つづき

林、森でみられるもの

鳴き声でわかる種は、写真なしで報告OK

※ 鳴くのはオスだけ



ミンミンゼミ



ミンミンゼミ



クマゼミ



キリギリス科
(ニシキリギリス、
ヒガシキリギリスの2種)



ルリタテハ



オオムラサキ



コムラサキ



ヤマクロヒョウモン



イシガケチョウ



ミカドアゲハ



アオスジアゲハ



ヤママユ



ヒロードハマキ



カフトムシ



コクワガタ



ヒラタクワガタ



センコガネ科
(センコガネ、
オオセンコガネの2種)



タマムシ
(ヤマトタマムシ)



シロスジカミキリ



ルリボシカミキリ



トゲナナフシ



キムネクマバチ

種類がわからないときは
種名調べ支援へ



たくさん報告して
報告件数ランキング
上位をめざそう！

対象：
分かりやすい30種
に変更

時期：
6月17日から開始



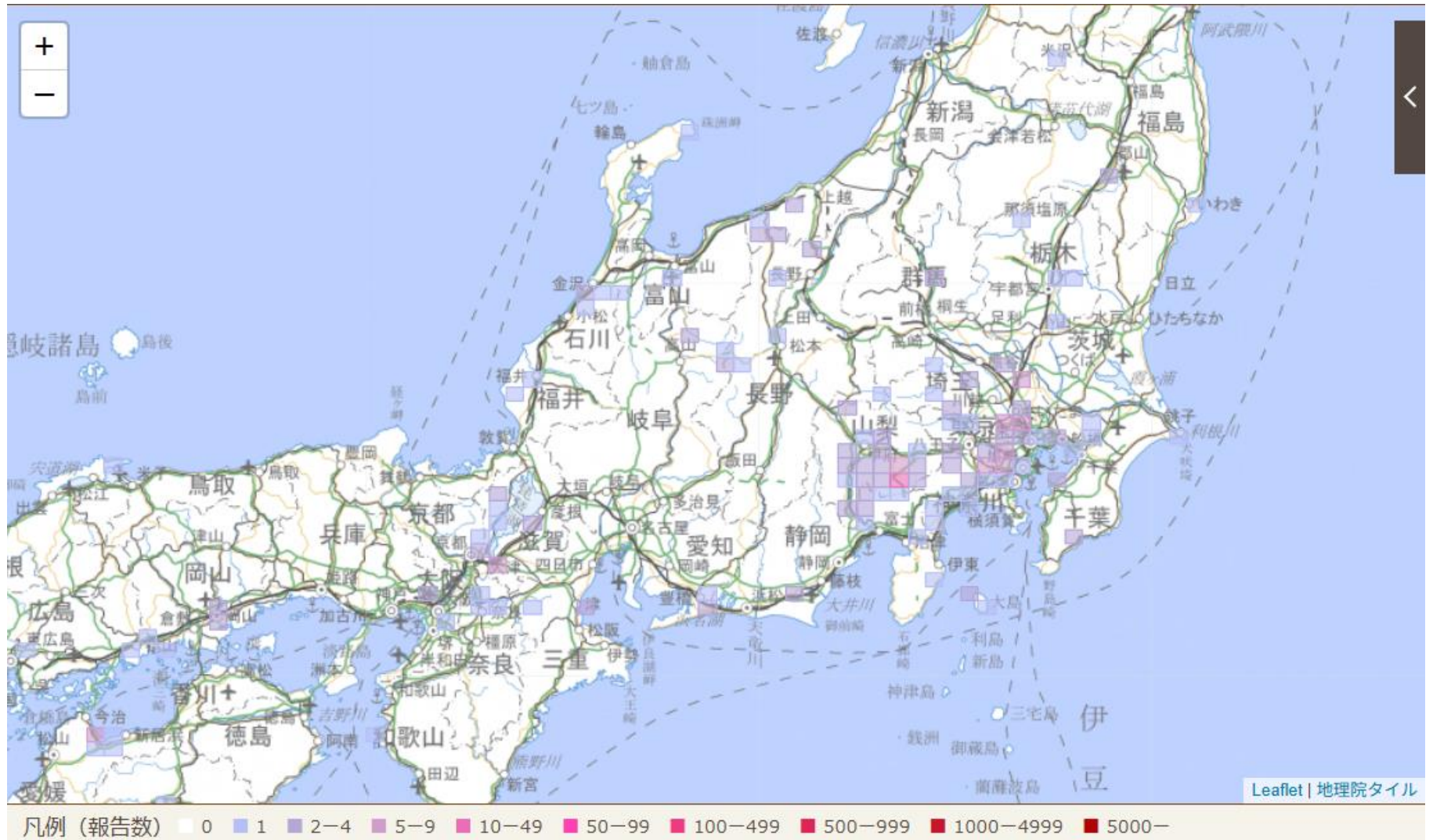
10月27日現在
139人 (+70人)
451件 (+370件)

いきものログを用いた市民参加型調査のメリット・デメリット

- ◎ 低コストでの調査実施
- ◎ 広範囲での調査が可能
- ◎ 誰もが参加できるシステム
- ▼ いきものログへの最初の登録や記録した昆虫の登録時に多少手間と時間がかかる ← 慣れると容易になる
- ▼ 写真撮影が困難 ← 昆虫は動いたり、遠くにいたりする場合もある
精度を担保するためにはやむを得ない
実際に誤同定も少なからず存在
- ▼ 広報の必要性 ← 多くの方に参加いただくほど、精度は高まる
- ▼ 提供情報の偏り ← 人口の多い地域などに情報が集中
まったく情報のない地域の存在
他の調査で補完 文献調査、アンケート、標本調査



提供情報の偏り



(令和7年10月23日現在)

おわりに



いきものログを用いた市民参加型調査

緑の国勢調査！みんなで虫らべ2025



いきものログ



環境省

緑の国勢調査！みんなで虫らべ 2025

こんな虫を見つけたら、写真をとって報告しよう！



クマゼミ



オオムラサキ

むし

レア度

- ★ 見つけやすい
- ★★ ときどき見られる
- ★★★ 見つけるのがむずかしい

参加方法

- ① **対象の昆虫を見つけて写真をとろう！**
※卵、幼虫、さなぎ・まゆ、死がい、抜けがらでもOK
- ② **環境省いきものログのウェブサイトから「緑の国勢調査！みんなで虫らべ2025」へアクセス**
右のQRコードからアクセス
- ③ **「新規登録」からユーザ登録とログイン**
※15才以下の方は保護者の同意が必要です。
- ④ **報告する** ※報告期間は2025年6月17日～2025年11月30日
※過去の写真記録（2000年以降）の報告もOK



緑の国勢調査！
みんなで虫らべ2025

虫のくわしい情報も
ゲットしよう！

- ◆11月30日まで報告可能
- ◆2000年以降の写真記録があれば、それも報告OK!!

皆様からの報告、
お待ちしております!!